

中国の文化から見る性教育

—家庭づくりを巡って—

崔 旭

Abstract

As part of the development of the economy, one child policy was carried out from 1978. It has had a profound impact on Chinese society. For example, it controlled the rapid population growth, opened the sex attitudes, and protected the environment as well as almost all kinds of conception methods were used generally. But the Chinese government started the three-child policy to alleviate the problem of the ageing population since 2021. It will have a bad influence on female workers and the protection of their work opportunities if the society does not support flexible child-rearing policies. Family makes the society stable. And the culture of having children is still the main trend in China. But condom prevalence remains low. And the number of AIDS patients and PLHA is still on the rise. It is essential to implement the comprehensive education in China. The LGBT group also needs to form families. It is hoped that the comprehensive sexuality education will increase social tolerance.

キーワード……中国 文化 性教育 家庭づくり

1 背景

WHO が発表した「世界保健機関憲章前文」¹⁾によると、健康とは、病気ではないことや、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいう。見た目では判断できる病気であれば、予防しやすい一方、見た目では判断できない病気であるなら、世間の恐怖心や差別を引き起こしやすくなる。例えば、AIDS などの STIs などである。2020 年 WHO²⁾ のデータによって、全世界には 150 万人が新たに HIV に感染し、37.7 百万人が HIV を抱えながら生きており、その中で、0.7%の感染者が 15-49 歳の年齢層にあることが明らかになった。73.0%の HIV 感染者が抗レトロウイルス療法を受けている。68 万人が HIV 関連の病気で亡くなった。EVIDENCE To ACTION³⁾によると、2019 年に中国における HIV 感染者は 962,809 人、抗レトロウイルス療法を受けている感染者は 863,189 人、ウィルス量テストを受けた者は 668,121 人、ウィルス量を抑制する感染者は 636,715 人である。HIV 感染者及び AIDS 患者はいまだに増加しているため、AIDS などの STIs に関わる知識の普及は、依然として中国における性教育を実施する時の重要な一環だと

考えられる。人間の移動がコントロールできない現代には、学校教育において健康を守ること及び疾病に関わる知識を教えることは、将来児童生徒の幸せにつながる点で不可欠である。

2018年7月、中国では UNFPA⁴⁾ が「国際性教育技術指導綱要(修訂版)中文版」を頒布した(インターネットで無料ダウンロードできる)。性教育に関わる内容を実施するためには、事前にその国における性をめぐる文化及び風習を知っておくべきである。また、現代に存在する性をめぐる様々な現象は、既に中国の古代に出現していた。あるいは、これらの現象は人類にとって共有なものである。

中国における人口政策が変動している。2015年10月、翌年1月から中国全土における全ての夫婦に第二子の出産が認められることになり、翌2016年より、「二人っ子政策」期(二〇一六年～)となった。計画出産は、大きな節目を迎えたといえる。しかしながら出生数は政府が予想していたほどには増加せず、進展する少子高齢化にいかに対応するかが中国社会の課題であることが明確になった⁵⁾。そのため、2021年には、全国人民代表大会常務委員会が人口与計画生育法を完成し、一組の夫婦につき三人の子どもまで産むことができるようになった。財政、税収、保険、教育、住居、就職などの方面で色々な政策を実施し始め、子どもを扶養する際の生育、養育、教育の負担を減らしている⁶⁾。この背景には、女性が生育、家庭と仕事の間に挟まれていることが社会で解決すべき課題となっていることがある。また、人口政策は変更されたが、産むかどうかは女性の権利であるため、強制的に女性に産ませることを実施していない。しかしながら、「一人っ子政策」を通じて、男女平等や女性の教育を受ける権利の保障が有効的に実施された。社会環境は一層、女性の権利を守ることに向かっている。

2 中国の性文化について

人間の性は、本能と文化の産物である。劉達臨、胡宏霞(2007)⁷⁾によれば、人間の性行為は三つの目的がある。それは人生を楽しむため、健康的な発展のため、生殖のためである。人間の性は、人口という点で社会に影響するため、人口の過少や過多はどちらも好ましいものではない。従って、いずれの社会でも、人口の量に応じて、強制的または自由意思を啓発する方法で、男女の性行為をコントロールしている。また、性に関する態度は、個人の自由及び幸福感に強く影響を及ぼし、さらに社会の安定や国の興亡にも通じるものである。

現代社会において、人間は仕事によって、それぞれ異なる生活をしている。しかし、性に関する欲求は、民族、国家、職種、宗教、皮膚の色などと全く関係なく、全ての人間が持っているものである。従って、性に関する教育はどの国でも実行されるべきことである。中国で性に関する教育を実施するためには、元来の性文化を理解しなければならない。中国においては、長い歴史を経て家庭を中心とする文化秩序が形成され、この下に、男子主義、親孝行などの文化的産物が現れた。以下では、古代中国と現代中国それぞれの性文化の特徴について分析し、類似点と相違点を明らかにする。

2-1 従来の家庭を中心とする文化

王全意ら⁸⁾によれば、何千年もの間儒教文化の統治下に置かれた中国は、その生殖秩序に関する定義にしたがって、性行為の目的を繁殖と世代の継承とした。越王勾踐の統治時代には、「女子は17歳の時にお嫁さんにならないと、両親の罪になり；男子は20歳に娶らないと、両親の罪になる」とされた。唐代太宗の統治時代には、政府が「15歳の女子、20歳の男子は必ず結婚すること」を決めた。様々な史料からは、中国には男女生殖論理を中心とした伝統的な家庭論理観が存在したことがわかる。この伝統的習慣を踏まえて現代を捉えれば、中国における両親が子どもを結婚させようとする行為は納得できる。また、中国伝統木製年画に含まれる民俗文化及び人文精神には、中国人が家庭及び子どもを求める理想が表れる。年画研究専門家王樹村によると、年画とは、中国民間において独立した伝統的な絵画の一種である。新年に貼るため、年画と呼ばれる。狭義的には、新年に都市部や農村部を問わず、一般民衆の居住空間内外、窓、壁、釜戸等のところに貼り、各地の工房等によって作られた絵画作品である。広義的には、年画職人が作り、工房業界によって経営される民間の風習や生活を反映する絵画作品は、すべて年画類に属する⁹⁾。例えば、張士閃(2006)¹⁰⁾によれば、「春宮図」、「風流艶暢図」などの男女交際を表す年画は、色々な地域の親が娘に提供する嫁入り道具である。中国の伝統社会では、性知識は主に日常労働の相談、遊びなどの活動で伝えられる。しかし、女性の社会集団労働の機会は少ないため、性に関する知識を一切知らない女性は少なくない。また、春宮図のような年画を購入する時、購入者と店長の間で、秘密裏に購入する習慣がある。いわゆる、購入者は店舗に入ってから、なにも話さず店長に親指で指し示す。そして、店長にはその意味が通じる。赤色の紙で巻いた年画をお客さんに差し上げる。年画の値段について、購入者は聞かず、店長が伝えたまま支払う。また、多子多福、子ども好きの意味を含む年画も昔から多く存在している。例えば、以下の「麒麟送子」「五子奪魁」である。



図1 麒麟送子¹¹⁾



図2 五子奪魁¹²⁾

家庭を中心とする文化は、中国の伝統的文化に限ったものではない。キンゼイ(2013)¹³⁾によれば、多くの社会学者と人類学者が家庭を社会の基礎とみなし、男女間の性に注目している。

また社会においては、性交渉は家庭を維持するための手段としてのみ捉えられている。

近年、多くの若者の間でディンクス (Double Income No Kids) の生活を選ぶ。夫婦二人と犬または猫との生活がブームになっている。一方、両親は熱心に若者を結婚させようとしている。北京、上海などの大都市の公園には、結婚適齢期間(25～40 歳)の子どもの個人情報をポスターに印刷し、彼らを人気「商品」にしている。色々な方法を考えて、熱心に子どもの代わりに結婚相手を探しているのである。これは「見合コーナー」(中国語：相親角)と言われる。テレビでは、親連れの「中国式相親」、「非誠勿擾」などの見合い番組が人気である。この現象からは、両親が子どもの婚姻状況を心配していることが見受けられる。中国の伝統文化には、両親が自分の子どもの結婚、出産を見て安心する文化がある。

現代の中国では、性に関する話題は話さないものになった。「一夫一妻」は現代文明世界の象徴と認識される。1912 年、中華民国では「中華民国臨時約法」が頒布され、「一夫一妻」が実施された。マルクスとエンゲルスの理論(1965)¹⁴⁾ から見ると、家庭というものは本来からあるものではなく、人類の経済社会が生まれた歴史的段階になってから産出されたものである。これについて丁美美(2020)¹⁵⁾ の整理によれば、現代の家庭は夫婦関係あるいは血縁関係のもとに組織された社会基本単位であり、家庭の形式は社会の発展によって変わりつつある。また、「一夫一妻」の優越性について、丁美美(2020)¹⁵⁾ は夫婦双方が共同生産、消費、子どもの扶養及び親孝行を行うことに価値を見出す一方、家庭を生活・生産の社会最小単位として、社会経済の発展及び安定に有効であると述べた。中国における一般的なライフスタイルは、両親、子ども、祖父母が一緒に生活することである。祖父母が孫を育てることも普通である。長い社会発展の過程の中で、このようなライフスタイルが残存している。しかし、一人っ子世代の誕生は社会に様々な影響を及ぼし、持続するかどうかは不明である。

19 世紀アメリカの人類学者及び民俗学者であるヘンリーモーガン¹⁶⁾ (劉達臨、胡宏霞, 2007) は以下のことを発見した。人類の婚姻家庭形式の発展は、実際は男女の性交関係が制限される程度の意味しかもたない。婚姻家庭形式の発展によって、家庭モデルにすぐさま新しい変化が生じたわけではなかった。そして、婚姻形式がさらに前に一歩進んだ時、家族モデルも同時にさらに前に一歩進む。従って、逆に言えば、最古の人類における両性関係と家庭が追求できる。家庭モデルを研究する上で、原始時代の両性関係は「社会化石」である。この「社会化石」によって、最古の人類の時代には、両性関係が制限されない性交渉の時代があったことが分かった。フランスの哲学者及び社会学者のエスパナスは 1877 年に出版された『動物社会』の中で、「動物の世界では、グループが最も高い社会集団の状態であり、これは家庭で構成された。しかし、家庭とグループは最初から対抗の状態にあり、反比例的な発展である。」この点について、劉達臨、胡宏霞 (2007)¹⁶⁾ は「グループの状態では、性交渉関係がない。しかしながら、一旦家庭になると、性交渉関係は単一状態になることも自然である。婚姻及び家庭制度の発展に伴い、性交渉に対する制限が多くなり、グループにおける雑交に対する影響が少なくなるの

である。」と指摘した。

中国古代の儒家文化において、性交は夫婦の間で生殖のために行われた儀式である。従って、性技法が排除されている傾向がある¹⁷⁾。早期の道家には、性交が仙人となる方法として認められ、現代的な意味での性技法としては認められなかった¹⁸⁾。仏家では性交がある種の「苦しみ」と認識される¹⁹⁾。さらに、「房中術」が一度流行したが、唐代の後には徹底的に撤廃となり、中国人の性実践において重要なものではなくなった²⁰⁾。生殖ということは、群体の利益に影響するだけではなく、氏族、部落、社会、国家の存亡や盛衰と強く繋がっている。従って、人類のどの歴史的段階においても、後代の生育を非常に重要視している。禁欲主義が流行している年代にしても、最も保守的である者は性交渉を否定することができるが、生殖ということまでは否定できない。性交渉は生殖に服従するのである。

2-2 多様な性文化

本節では、古代の中国における性文化、民俗、宗教から分析する。劉達臨、胡宏霞 (2007)⁷⁾によって、歴史から見れば、中国には三つの特異の性現象が存在していた。女性売春、宦官去勢、女性纏足であった。この中で、女性売春と宦官去勢は、世の中で多くの国と民族が持っているものである。しかしながら、女性纏足という変態現象は中国特有である。だから、中国における性文化史には、女性の体に対する侵害した時期があった。

中国の歴史における性文化には以下の特徴がある。まず、中国古代の性文化は当時の政治経済状況と強く繋がっている。次に、中国の性文化は極めて可変的なものである。さらに、古代中国人の提唱する「中庸の道」という態度も性文化の多くの面に浸透していた。中国人の性に対する態度は、いわば優雅と含蓄である。すなわち意を含みつつも明らかにしないことである。四つ目に、中国古代の哲学は「天人合一」である。これも中国古代性学「房中術」の理論的な基礎である。五つ目に、古代の西方には、禁欲時代と欲望に狂う時代の繰り返しがある。禁欲時代には、性の機能はただ生殖に限っている。しかし、欲望に狂う時代には、過剰な性欲をまき散らし、性を通じて変態的な楽しみを求める。中国の古代では、性の生殖機能を重要視する一方、性の健康機能も非常に強調している。六つ目に、中国には封建社会が長く存在していたため、小規模農業経済が長く持続した要因には、中国人が婚姻及び家庭の調和、子孫の繁栄を重視したことが関係している。七つ目に、性は婚姻の強化、家庭及び子孫の繁栄と繋がっているため、女性の貞操を非常に重要視している特徴がある。この特徴は宋代中期以後に顕著に現れてくる。八つ目に、性に関する文学芸術においては、社会の統治と逆行するような特徴が特に明清時代に現れた。この理由は、一つには文人が官の道に興味がなくなり文学や娯楽に専念するようになったこと、もう一つは、性行為への強大な制限に対するリバウンドがあったからである。これは消極的な反抗の一種である。

中国には 56 もの民族があり、それぞれ性をめぐる民俗は異なっている。よく知られている

ものに、納西族の摩梭人がある。主に中国の雲南省で生活しており、母系社会を保っている。摩梭人はしばしば人類社会の「活きた化石」と言われる。摩梭人は「走婚」という伝統的な民俗で生活している。「走婚」は「阿注婚」とも言われ、「阿注」は「恋人」の意味である。「阿注婚」の特徴は、男性が嫁を娶らず女性は夫を探さないという状態である。摩梭人は 18 歳前後から、労働または祭りなどを通じて、「阿注」を探す。夜になると、男性が女性の家に行つて、靴をドアの前に置いて、性交渉を行う。ここでは、男女両方が相手と家庭を築くことを考慮していないのである。この方法は法律上には婚姻関係と認められない。現代でも、70%の摩梭人がまだ「走婚」を行っている。これは摩梭人の周辺のチベット族、プミ族にも影響が及んだ。(劉達臨、胡宏霞、2007)²¹⁾

現代における中国人の性に関する文化の変化は、性技法の特徴から窺える。今や性革命の時代に入ったのである。性というものは、特殊な存在であるが、特殊な行為ではない。性は人格と強く繋がっている。これは、性革命の社会意義である。もし中国人がこの最も隠密な領域において自我の解放及び自己実現を実現できたならば、中国人の人格はより豊かなものとなり、社会そのものも益々良くなるであろう。

性に関する気分や感情を表す時、中国人は直接的な方法を用いない。これは、日常生活の規則が性行為にまで浸透しているためである。中国人は教育現場や日常生活において、性技法を教えられることはないが、成長の過程とともに、行為を身につけていく。いわゆる「ルールがあり、しつけを持つ」ということである。このような日常行為を訓練する目的は、あくまでも他人の目線から自分の社会的身分を守ることである。作法が悪くなると、「下流身分」と見られ、これは低所得層に特有のレッテルなのである。このような訓練から、上流階級の人々は「規則」と「しつけ」を「自覚」し、潜在化するのである。従って、このような保守的な家庭教育のもとに育てられた人間は、いつも指導及び制約を受け、知らず知らずのうちに自分の行為と認められる。黄盈盈、潘綏銘(2016)²²⁾ は 2000-2015 年に、性技法の発展及び変化が、社会階層や性関係及び性生活へいかに作用しているのかについて、18-61 歳の人々を対象とした 4 回のランダム調査を中国全土で行った。そこでは性技法の受け入れ寛容度を五つの等級に分けており、寛容度の高い方から順に並べると、以下の通りである。①キス、②乳首及び外陰を触ること、③全身の動作及び体位(騎乗位や後背位)、④口腔性交、⑤肛門性交である。最初の三回の調査結果から見ると、キスが最も受け入れやすい性技法であり、平均 84.5%を占める。乳首及び外陰を触ることが平均 77.1%である。また、全身の動作及び体位(騎乗位や後背位)への寛容度は、2010 年以前から継続的に増加している。2015 年までに増加は見られないが、これに寛容な者は 4 回の調査対象者の 3 分の 2 を占めた。この点から見れば、多くの中国人は騎乗位や後背位を受け入れていることがわかる。他方、これと対照的なのが口腔性交である。中国人にとっては受け入れにくいようであり、2000 年時点ではわずか 6 分の 1 から 5 分の 1 を占める程度であった。しかし、2015 年には約 37%を占め、騎乗位や後背位に次ぐものとなっ

た。以上のうち、最も受け入れにくいものは肛門性交である。2000-2015年まで、増加する傾向にあるが、占める割合はわずか8分の1であった。これらの結果から見ると、直近30年、特に21世紀から、中国人の日常生活における性技法は大変革の時代を迎えていると言えることができる。最も重要なのは益々活発な技法がトレンドになっていることである。かつて高く評価された中国人の価値観は、性格が穏やかで静かにルールを守るというものであった。しかしながら、現在の中国社会において、これは時代遅れなものとなみなされている。価値観の変化は、いつしか性生活にも波及し、ここに性の楽しさを希求する中国人の姿が見えてくるだろう。

続いて宗教について取り上げるにあたり、「房中術」の理論的基礎である道教に言及しなければならない。道教は中国で発展した唯一の宗教であるため、中国の民族的文化的特徴を有している。中国古代の「房中術」における様々な作法に対する科学的な分析が行われる必要がある。その理論的基礎である道教は、関連文献が残存しない神秘的なものではあるが、今後も継続的な研究がなされる価値がある。さて、「房中術」の最も基本的な理論は陰陽五行説である。道家のよく知られた文献である「参同契」の第七十三巻には、「男女は性交渉の時に天道に従うべきであり、『男上女下』は最も自然な姿勢である」という記述がある。このほか「天人感応」、「陰陽合一」などの理論にもある程度の科学的な道理があり、それは現代科学の研究対象となっている。一方で、現代気功の最も基本的な原理は、自然界にある「気」を吸収して命を養うことであるが、この点については中国人に限らず現代の多くの人々が信じている。例えば気功については、長く一緒に生活する夫婦はお互いに相手の息吹を感じとることができることを欧米の性学者でも信じている。性交渉をしなくても、夫婦がともに寝て抱擁するだけで有益なのである。それは、夫婦双方の体の分子が交流し、息吹が調和されるためである。この理論は、道家の思想と共通点を有している。房中家の考え方によれば、女性の性器官が分泌する「陰精」と男性性器官が分泌する「陽精」は最も重要なものである。女性の「陰精」が次々と放出される一方で、男性の「陽精」には量の制限があるため、その質こそが重要視される。従って、「陽精」は定期的に「陰精」を吸収することにより、自身を増強するべきであり、その方法として、性交渉があげられている。(劉達臨、胡宏霞、2007)²³⁾

他方でLGBTについて、劉達臨、胡宏霞(2007)²⁴⁾は以下と指摘した。「中国では歴史的に同性愛者が迫害されたことはなかったとされ、この点では中国人が寛容で融和的な態度を持っていると言える。ただし、1950年代から80年代にかけて、同性愛を禁じる法律が存在しないにもかかわらず、『左傾』思想の影響で同性愛者が逮捕されることがあった。中国の法律上、同性愛者を処罰する条例がない(この問題に対して、中国の法律は科学的で公正である)。同性愛者に課される罪は『ごろつき罪』と言われるが、90年代以降、この現象は徐々に減少した。1973年にアメリカ心理学学会は『同性愛』を精神的疾患から除いた。が、その時点では中国においてまだこの考え方は認められていなかった。しかし、30年後の2001年4月には『中国精神疾病分類与診断標準(第三版)』が頒布され、同性愛に対する定義の変更により、非病理化

の決定がなされた。科学によって間違いと偏見が訂正され、多数の民衆に根付く伝統的思想もこの 10 年から 20 年の間で変わりつつある。中国において、同性愛がどのように取り上げられているのかについては、依然として探究の余地がある。」トランスジェンダーについて、テレビ番組で有名な女優一金星(そもそも男性である)が活発に発言している。

日本の場合、LGBT かどうかを判断するために、早稲田大学教育総合研究所の研究では、薬師実芳(2015)²⁵⁾ は LGBT を定義した。「性別はからだの性で決まると思われる方が多いかと思いますが、性は大きく分けて四つの軸で捉えることができます。一軸目が『からだの性 (生物学的性)』で、外性器、内性器、性染色体等により決定されます。二軸目が『こころの性 (性自認)』といって、自分の性別をどのように認識しているかというものです。三軸目が『好きになる性 (性的指向)』で、どのような性別の相手を恋愛や性愛の対象として持つかというものです。そして最後が『表現する性 (性表現)』ということで、自分の性別を服装、話し方、振る舞い方等によりどのように表現するかというものです。この四軸が掛け合わさって、セクシュアリティを考えていくことができます。」

さらに、性を構成する三つの要素は杉山文野(2015)²⁶⁾ が定めた。それは、『体の性 (生物学的性)』、『心の性 (性自認)』、『好きになる性 (性的志向)』の三つの要素に分けて考えてみます。この三つの要素それぞれに、既存の男・女に当てはまらない第三の性が存在するのではないかと思います。……ざっくり二つに分けると、女性から男性に性別を移行する人、した人である FTM (Female to Male) と、男性から女性に性別を移行する人、した人である MTF (Male to Female) に分けられます。……一番大きな違いは、同性愛というのは自分と相手との間にある関係性 (自分対相手) であるのに対し、性同一障害というのは、対象の性は関係なく、自分の体と自分の心の問題 (自分対自分) であることです。……気付いたら性別のことで悩む時間はかなり少なくなっており、やはり、仕事で自信をつけるというのが一番大事なことなのではないか」と杉山が論じた。以上のことによって、学校教育で LGBT と判断し難い児童生徒が出てくると、まずは性同一性障害か、同性愛かを判断してから、適当な手当を実施することが重要である。また、学校教育を通じて、LGBT の子どもは自分に自信を持ち、自分らしく生きる能力を育てることを望んでいる。教育は社会に向けるものであるため、最後は子どもが無事に社会に進出して、仕事を見つけることによって、自信をつけることも重要だと考えている。

中国において、20 世紀 80 年代から、北京の病院を中心として、性別適合手術を実施し始めた。²⁷⁾ そして、一番目の性別適合手術規範は、2009 年に衛生部が頒布した「変性手術技術管理規範(試行)」²⁸⁾ である。この試行版には、性別適合手術が実行できる医療機構、従業員、技術管理基本要求などについて、詳しく規定された。性別適合手術を実行したい者は、以下の五つの条件を満たす必要がある。

- (1) 性別適合手術を 5 年間以上希望し、且つ決心は一回も変わらないこと;
- (2) 手術前に、心理または精神治療を受けて一年以上になり、且つ効果がないこと;

- (3) 未婚状態;
- (4) 年齢は20歳以上になり、完全的な民事行為能力を持つ者;
- (5) 他の手術禁忌症状がないことである。

そして、性別適合手術規範を実施する前に、必ず以下の資料を提出する。

- (1) 地元の公安部門が発行した無犯罪記録証明書;
- (2) 精神科医師が発行した診断証明、且つ他の精神状態異常がないこと;カウンセラーの測定によって、心理面の性別認識は異性であり、且つ他の心理変態状況がないこと;
- (3) 本人は手術の書面報告書を提出し、公証を行うこと;
- (4) 患者は直系親戚に性別適合手術の実施を通知した証明書を提出すること

以上のルールから見ると、現在中国において、トランスジェンダーが手術を受けることはできるが、実施条件は複雑であることが窺える。性別適合手術は体に強烈な副作用をもたらすため、複雑な判断条件は患者がきちんと自己責任を取る必要があることを証明した。

2-3 現代における女性主義の発展

中国は儒教の影響で、「男尊女卑」、「三綱五常」の伝統文化がある。このような封建文化は、中国語に見出される。田禾(2011)²⁹⁾の文章によって、『男尊女卑』という四字熟語は元曲で初めて使われている。……そもそも古代中国人の世界観では、宇宙が陰陽対照で構成されており『すべての時間の始まりは天から、すべての生命の始まりは地から』と考えた。そして女性が出産することは、『地』と同じであり、『陰』である。一方男性は女性の対照として、『天』であり、『陽』である。……しかし残念なことに、後の時代では強力な封建社会・父権社会であるため、天地の自然な上下地位が利用され、『男尊女卑』の言葉が作られてしまった。……『三綱五常』という言葉もその時代の象徴の一つと見られる。君臣・父子・夫婦の道である三綱は夫と妻の主従関係を明確に規定した。……しかしここで改めて言語学の観点から見ると面白い現象が生じている。トイレなどは必ず『男子トイレ』・『女子トイレ』のように平等に両方限定語の『男子・女子』を使うが、『部長(大臣)』という単語の前に『女』という限定語がなければ、男性の政治家を指すことになる。」

女性主義に関しては、「女性性権利」という言葉を検討しなければならない。『中国性科学百科全書』³⁰⁾によると、性権利とは、個体の性関係及び性活動においては、ある行為をすることができるまたはできない許可及び保障、または他人にある行為ができるまたはできないことを要求する許可及び保障である。性権利は最も基本的な人身権利の一種であり、社会には誰でも持っている個人権利である。曹育明(1998)³¹⁾によると、婚姻中の性権利は二つの内容があるべきである。一つ目は、婚姻中の者が守られ、侵害を受けないことである。(婚姻中の女性がレイプされることは、婚姻中の女性が性交渉を同意または拒否する権利を侵害されることである。)二つ目は、合法的、合理的にこの権利を使うことである。

昔から今まで、女性は生殖のため存在するものだと考えられることがある。人類性生理進化のことに、劉達臨、胡宏霞(2007)³² は以下の観点を論じた。人類性生理進化において、雌猿の発情期の消失は非常に重要な一歩である。人間の脳発育の結果、女性の発情期が無くされた。長期的な性交渉経験が脳皮質に影響を残し、無くすことができなくなった結果、遺伝子レベルで人類に遺伝された。そのため、人間はいつでも発情できるようになり、いつでも性交渉できるようになった。このことによって、女性が妊娠する機会を増やし、人口を拡大することには重大な歴史意義がある。

中国において、女性が社会に出て、就職することによって給料を得ることができる。この方法で女性自身の様々な権利を実現できる。性に関する権利も、女性の解放が進む中で徐々に実現された。中国において、女性が自らの権利を奪い取り、守るために、色々な女性運動を行った。そのため、21世紀における中国の女性は男性と平等に「就学」、「就職」、「同工同酬(性別などの区別なく、同一の労働に対しては同一の報酬を与える)」を実現している。

現在、中国では「一夫一妻」が実施されている。しかし、丁美美(2020)¹⁵ によって、現状は女性に対する拘束が男性より強いことが論じられた。また、現在中国の女性の苦境として、成年後、多くの女性は仕事をしなければならないし、子どもを産まなければならないことがある。そのような状況では、自己実現がすごく困難な状況になる。以下の図3のように、女性が五つの選択肢がある。独身またはディンクス生活という選択肢以外で、一般的には、三種類の婚姻生活を過ごすこととなる。一人、二人または三人の子どもを産むことである。女性は専門学校または大学を卒業して23歳前後になるため、結婚、第一子を産む。良い会社にいるなら、職場に戻れる。しかし、第二子を産むと、職場に戻ること、または再就職することが難しくなる。日本の場合、女性の権利を守る法律があるため、専業主婦であっても、夫の給料から妻の国民保険及び国民年金に充てることができる。万が一、離婚する場合、子どもの親権は母親がもつことが一般的であり、父親が扶養費を支払う。これは、法律上の女性の地位を守った。中国では、男女平等が日常生活だけではなく、法律上にも反映された。もし中国で夫婦が離婚して、妻が仕事をもたなければ、子どもを養う権利も無くす。知識、法律常識及び仕事を持っていない女性に対しては不利な状況になる。

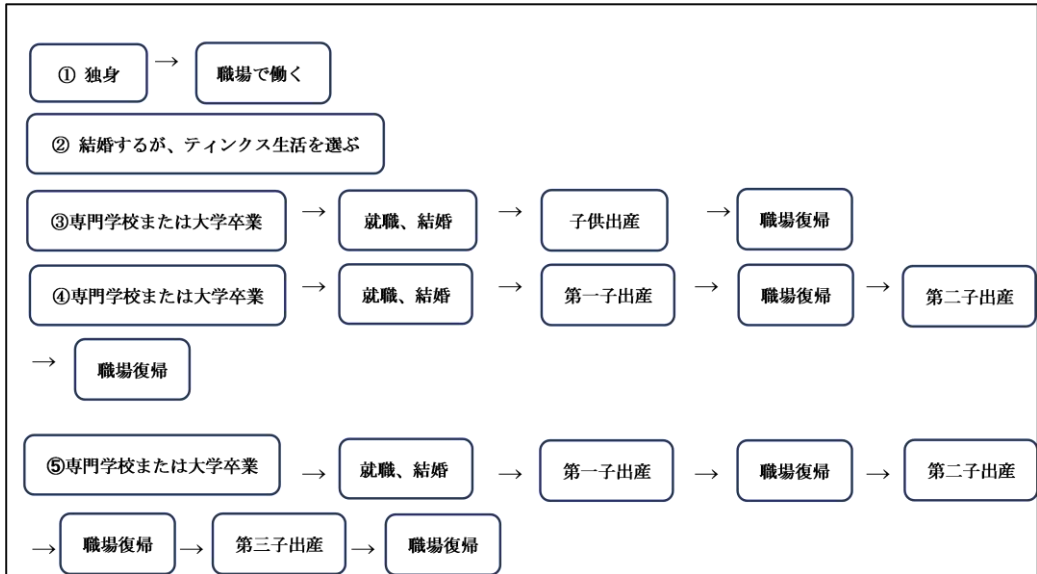


図3 中国における女性のライフコース (筆者作成)

古代には、戦争紛乱があり、人間の生存状態が非常に悪いと考えられる。しかし、平和と発展を主題とするグローバル化の社会では、女性の社会進出への新たな課題が出てきた。特に、コロナ禍の時代には、女性の働き方も変わってきている。女性の教育を受ける権利、就職、出産及び育児など、きわめて大きな変化を迎える時代になった。日本と中国は、どちらも男権社会の段階にある。しかしながら、日本社会の方が、やや女性に優しく扱っていると筆者は考えている。例えば、女性は結婚しなくても、または女性は結婚してもディンクス生活を選びやすい社会になっている。中国の女性は日本の女性と同じように、権利を獲得すべく戦っている段階にある。日中両国の間に、お互いに参考できるところがある。現代社会は、いったい女性がより柔軟に対応できるように変化しているのか、益々生存は難しくなっているのか、この問題について、日中対比の観点から分析したい。

教育と就職について、2020年の男女格差指数(GGGI)³³⁾によると、世界153カ国中、中国は106位、日本は121位にあることから、いずれも格差が小さいといえず、格差拡大の傾向が見られる。日本と中国は、同じアジア文化圏にあるため、「男尊女卑」、「重男軽女」の思想は今でも影響がある。そのため、女性の教育権利及び就職の自由を守ることに支障が生じやすくなる。中国の農村部では、女性が義務教育を完成するだけでも精一杯であり、大学に行ける者はさらに珍しい。日本の場合、大学及び大学院の進学率から見れば、女性は男性より低い³⁴⁾。

女性が職場で直面しやすい問題は、就職しにくいことと給料が男性より低いことである。日経ビジネスのニュース(2018)³⁵⁾では、総務省が8月31日に発表した7月の労働力調査によると、15歳から64歳の女性の「就業率」が69.9%と前年同月比2.1ポイント上昇、過去最高と

なった。しかし、この就職率はまだ男性より低い。「中国で公開された「2018年中国女性職場現状調査報告」では、全国範囲で31の省市のさまざまな職業男女を調査した結果、女性の平均収入は男性より22%少なかった。報告では、初任給は男女ともに同じでも、その後の昇進で徐々に差が出てくる。所謂「ガラスの天井」が存在するのは、日本と変わらないのだ³⁶⁾」。

少子高齢化の日本には、税金を得るために、政府が人口を増やし、女性が働きやすい職場を作る必要がある。従って、日本は「男女共同参画社会」を作ることを目指している。中国では計画経済期に男女雇用促進政策が採られ、「男女平等」という言葉は教科書でよく見られる。教育によって、徐々に皆の考え方を変化している。また、中国では「一人っ子政策」を実施した時代がある。一人の子どもだけを持っているなら、全ての愛をこの一人っ子に注ぎ、教育の権利をきちんと守る。しかし、現在の中国では、何人を産んでも構わない時代が来たため、教育資源が有限の状態において、女性の教育及び就職の権利を守るために、色々な国から勉強すべきである。

出産は、女性の特有の能力である。母親になることも、女性特有の権利である。もちろん、この能力を使いたくない者もいる。しかし、政府は女性に子育てを行いやすい社会を作ることが最も重要である。中国の場合、社会サービスの提供が足りないため、子育ての仕事は、多くは祖父母の助けで完成する。これは家族愛の表しである。しかし、このことによって、より深刻な問題が起こる可能性がある。例えば、家族内部の喧嘩である。若者世代の育児観念は、祖父母の育児観念との間に、矛盾を生じることが一般的である。仕事以外に、生活のストレスも増やすことが、女性に対しては大変なことだと思われる。

一方、両親と離れて大都市で働いている女性は、多くは自分の仕事を諦めて、独自で子育てしなければならない。従って、中国の女性たちは、日本の保育所に憧れるものが多くいる。日本では、保育所の人手不足のため、社会から批判が多い。しかしながら、日本では、保育園の数を増やすことも同時に行っている。社会の変化が起こりやすい日本では、やや対応しやすいと思われる。国土が広い中国では、対応しにくく、なかなか変化できない部分もある。

女性と児童、お年寄り、どの社会でも弱者グループに所属している。従って、社会からより多くの注目と特別な対応が必要である。特に現代社会で生活している女性は、育児しながら就労しなければならない。女性は身体に多くの負担がかかる一方、体力減弱及び精神面ストレスの増加も一緒に起こる。従って、社会が女性の体のトレーニング及び精神面でのストレスを解消できるサービスも提供すべきである。

さらに、育児のため、女性は出産からの二、三年間離職し、そして復職する人が増えている。この場合、元々の職場に復帰しにくいいため、新しい職場を探さなければならない。この時、確実な就職情報を提供できるサービスセンターがあるとしたら、より早く就職できる。さらに、職場には、育児に友好的な職場を作って、同僚たちへの助けも必要である。

女性自身が改善すべき点について、女性は、自分の権利及び自由を守るために、社会からの

助けを待っているだけではなく、勇気を持ちながら積極的に社会に進出すべきである。日中両国は同じ状況である。例えば、積極的に社会に進出し、社会と接触することは、社会から見捨てられることを防ぐ有効的な方法である。中国の場合、新型コロナウイルス感染症蔓延防止対応下には、お菓子を作ってからネットで販売したり、ビデオを取って TIKTOK などの APP でアップデートしたりすることによって、お金を稼ぐ。特に、デリバリーの発送員の仕事が増えている。日本の場合は、YouTuber (ユーチューバー) になること以外に、PayPay フリマ、メルカリなどのネット中古市場の発展も注目されている。この電子市場では、手作りのものを販売する人もいるし、家でいらぬものを販売するものもいる。また、LINE Pay、PayPal などの電子支払いも進んでいる。電子 pay によって、菌の介在を防ぎ、人間を守るだけでなく、消費記録の調査も簡単になるため、社会が科学的に発展することに有益である。また、ネットスーパーの発展について、もし日本の高齢者が学ぶことができれば、高齢化社会の色々な問題を解決できるかもしれない。

科学技術が人類の仕事を代替しつつあり、人間が益々仕事を見つけにくい状態に陥る。今の時代は、科学技術、各種のロボットと一緒に生活しなければならない時代になっている。従って、よく社会と接触して、社会に進出すべきである。パソコンに関する技術を勉強しながら、社会に進出すべきである。ずっと同じことをするなら、視野が狭くなり、自分の発展にも不利になる。さらに、女性は子育ての仕事もしなければならぬため、社会と接触しながら子育てすることは、自分の人生にも、子どもの発展にも有益である。

3 一人っ子世代の中性化傾向

中国では、「計画生育政策」(日本語: 一人っ子政策)が、1978 年から実施され始め、1982 年には中国共産党第十二回全国代表大会で四つの基本国策の一つとして確立された³⁷⁾。一人っ子政策とは、ひと組みの夫婦が 1 人の子どもだけを持つことである。約 40 年間の一人っ子政策の実施は、人口増加の抑制に大きな役割を果たしたといえる。中国の経済は人口増加による利点をもたらす時期に、経済成長が著しく発展した。一方、現在、複雑多岐な社会環境に直面している中国の若者には、「丁克」(ディンクス、Double Income No Kids) 生活を選ぶものが増えている(李愛芹, 2006)³⁸⁾。小島(2016)³⁹⁾は、あと 10 年ほどで中国は高齢社会に入り、さらに超高齢社会へと向かうことになることと述べている。労働力不足は将来の中国の発展の支障になることが予見される。そのため、2013 年に「単独二子」(夫婦の 1 人が一人っ子であると、二人の子どもを持つことができる)という政策が全国で実施され、2016 年 1 月 1 日からは「全面二子」(ひと組の夫婦が二人の子どもをもつことができる)という政策が全面的に実施された。また、2018 年 3 月 27 日には、中国の「国家衛生和計画生育委員会」が「国家衛生健康委員会」に改称された。名称の変更は、中国政府が将来の人口問題を考慮することが明らかになった一方、国民の衛生及び健康状況をより一層重要視する態度を表し、今後、国民の健康に多くの力

を注ぐことが見込まれる。性に関する教育は、疾病の予防、健康的な子どもの育成、計画的に人生を過ごすことに有効だと思われる。将来、中国の発展に役立つ不可欠な教育の一環である。

「一人っ子政策」の実施が社会にとって有用であった一方、様々な問題も引き起こした。1980年9月25日に「中共中央による国の人口問題について共産党党员及び共青团員全体への公開状」が発表されてから、生じた一人っ子世代は、黄盈盈、潘綏銘(2014)⁴⁰⁾の調査によると2006年時点で総人口の21.6%を占めた。2010年には14-30歳層が総人口の29.1%（男34.2%、女23.5%）を占め、このうち都市部出身者は37.3%（男41.9%、女31.9%）、とくに14-17歳層は38.1%（男42.4%、女32.6%）を占めた。また、性交渉経験が最も少なかったのは30歳以下の女性であったが、これは一人っ子世代の女性が「性に関わりのないことこそが女性の徳である」という保護者の伝統的思考様式に影響されているためである。加えて、兄弟や姉妹がいる女性と比べても少なかった。

避妊は女性の自己実現や家庭計画の普及に良い影響を及ぼす。中国では、「一人っ子政策」時代の名残から、子宮内避妊器具、緊急避妊薬、径口避妊薬、コンドームなどは、病院または薬局で自由に購入できる状態である。そのため、子どもを産む時期などの人生計画を女性自らコントロールできるようになる。しかし、「一人っ子政策」が終了し、かつ避妊方法などに関する性教育が導入されていない状況は、女性の自己実現に悪影響を及ぼすものと考えられる。「一人っ子政策」を人間性が失われた残忍な政策と批判した学者がいる。しかし、この政策により中国の自然環境が守られ、経済発展にも繋がったこともまた事実である。さらに、世界的に見れば、人口のコントロールに成功したことで、地球環境の保全にも一役買ったと言えるだろう。人口大国であるがゆえに、農業も発達した中国においては、伝統的な「男尊女卑」思想の影響により男性労働力のほうは価値があるものとされ、男子の誕生が求められる傾向がある。また妊娠中絶は中国では合法であるため、一人っ子政策が実施された時代には、子どもの性別検査は禁止されたが、性別選択的中絶は存在した。小浜正子(2020)⁴¹⁾は「一人っ子政策」は、たしかに中国の経済発展と世界の環境問題の緩和に貢献した側面があるかもしれないが、そのための犠牲の多くは(胎児に始まる各年齢層の)女性が払ってきた。きわめてジェンダー不平等な負担であり、声の小さいジェンダーであったために女性の犠牲は実際よりも小さく評価されていると思われると指摘した。一方、多くの家庭で父系家族の再生産が不可能になり、それに対応した制度の整備も進められた。中国経済の高度成長による社会変化もあり、男子の跡継ぎにこだわらない人は増えた。出生性比のアンバランスは、適齢期の男女比に大きなアンバランスをもたらし、男余りの結婚市場での女性の価値の上昇も見られる。2021年第七次中国全国人口普查広報(第四号)⁴²⁾によると、中国の人口男女比は105.07である。

表1 各国の避妊方法 (2008年)⁴³⁾

TFR 以外は(%)

国名	TFR	総避妊率	近代的避妊率	ピル	IUD	注射	コンドーム	男性不妊手術	女性不妊手術	他
全世界	2.7	63	57	8	14	4	6	4	21	1
先進国	1.6	71	62	18	6	-	20	-	13	3
途上国	2.9	62	56	7	15	4	4	3	22	1
途上国(除中国)	3.3	53	45	9	6	5	4	1	18	1
中国	1.6	86.9	85.9	1.7	39.6	0.1	4.3	6.9	33.0	0.3
日本	1.3	55.9	55.1	0.8	1.5	-	43.1	0.6	3.0	6.1
北朝鮮	2.0	68.8	58.4	3.7	42.8	0.0	5.8	0.8	4.4	0.9
韓国	1.1	80.5	66.9	1.8	13.2	-	15.1	12.7	24.1	-
タイ	1.6	71.5	70.1	30.9	1.2	10.4	1.4	1.0	24.5	0.7
ベトナム	2.1	75.7	61.0	9.0	35.9	1.2	7.6	0.5	5.8	1.0
インド	2.8	56.3	48.5	3.1	1.7	0.1	5.2	1.0	37.3	0.0
イギリス	1.8	84.0	81.0	22.0	6.0	3.0	18.0	17.0	13.0	2.0
フランス	2.0	79.3	75.7	45.4	17.3	-	7.4	0.0	4.7	0.9
イタリア	1.4	60.2	39.2	3.4	3.6	-	4.1	-	5.8	0.0
オーストラリア	1.8	84.8	74.9	26.8	1.2	1.9	22.9	11.2	8.6	2.3
カナダ	1.5	81.0	72.0	21.0	1.0	1.0	15.0	22.0	11.0	1.0
アメリカ合衆国	2.1	72.9	68.5	17.2	1.9	2.2	12.0	11.2	21.7	2.3

表2 東アジアにおける各国の避妊方法 (2019年)⁴⁴⁾

国名	TFR	総避妊率	近代的避妊率	ピル	IUD	注射	コンドーム	男性不妊手術	女性不妊手術	留置剤	他
東アジア	1.8	81	80.0	1	38	—	10	26	4	0.3	0.2
中国	1.8	84.6	84.0	1.2	40.6	0.0	8.5	28.7	4.5	0.3	0.2
中国 香港	1.1	74.8	71.9	8.1	6.4	1.6	52.1	3.5	0.2	0.0	0.0
日本	1.4	39.8	34.4	0.9	0.4	—	30.8	1.0	0.1	—	0.0
北朝鮮	1.9	70.3	69.0	0.3	65.4	0.2	0.2	1.3	0.0	0.0	1.4
韓国	1.1	79.6	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0
モンゴリア	2.8	54.6	48.2	8.7	23.5	3.7	8.4	3.2	0.0	0.5	0.1

表1と表2における中国の避妊方法に関わるデータを対比すると、2019年は2008年のデータより、留置剤という新しい避妊方法が加わった。コンドームの使用率は少し上がったが、まだ低かった。HIVなどのSTIsを予防するために、性教育にはコンドームの重要性、使い方などの知識を導入すべきである。

保護者(両親、祖父母などの家族)たちの愛のもとに育てられた一人っ子世代の特徴は、想像力や創造力が強く、公正で平等な社会を求める社会を求める。単一性別という状態で育てられるものの、家庭では父親及び母親の行為を学んで、両性の特徴を兼ねるようになった。2000

年代以降、女性の美や力に注目する番組が次々と現れてきている。例えば、2004年の「超級女声」、2020年の「乘风破浪的姐姐」（風と波に乗る姉）などの番組は非常に人気を集めた。これらの番組に登場する女性の歌手には中性的な特徴が見られる。すなわち髪を短く切って、パンツを履き、また社会に進出をして職場で男性と平等に活躍することである。これはまさに、現代の中国人女性の存在感が増やしていることの証と言える。

「一人っ子世代」の存在により、中国社会の性革命はある程度進展した。また、「一人っ子政策」の実施が「男女平等」を掲げる教育内容の導入と一緒に行われた。女性教員が増員された小中学校や高校で育てられた若者は、自然に男女平等の意識を受け入れるようにもなった。女性を日常生活の中で「屈しない」存在へと至らせた教育方法は、世界、特にアジア各国に取り入れられるべきであろう。

中国の伝統文化には、長男または長女が家の支柱になるものがある。しかし、一人っ子の場合、この子どもは両親の老後生活の支柱として、頼れる人間に育てられなければならない。それゆえ子育ての過程では、愛を持ってきちんと一人前になれるように育てられた。また中国では、両親の共働きが普通であるため、このような環境で育てられた女子は、女性が社会に出て仕事をすることを当然のことと理解した。こうした状況下で、女性の解放運動が進められたことは、決して不思議ではない。

女性の中性化現象は、女性が自信を持ち始めた証であり、その教育、就職、幸福追求に好影響をもたらす。しかしながら、これらを男性が受け入れないことは少なくない。優しく、おいしい料理を作ってくれる家庭的な妻を持つことを理想とする男性も多い。そのため、中性的な女性は結婚する上で不利であり、結婚したとしても夫婦関係に悪影響を及ぼす可能性が高いと考えられる。

4 結論

中国では、多様な性文化がある。中国社会の文明開化の発展によって、歴史上にある女性売春、宦官去勢、女性纏足などの性現象から段々現代社会における男女平等を主流とする性文化になっている。性交渉も生殖を主要目的とすることから解放された。そして、長い歴史を経て家庭を中心とする文化秩序が形成され、この下に、男子主義、親孝行などの文化的産物が現れた。現代、まだ男性主導の社会にある中国人は、人口政策の変更によって、女性が仕事と家庭の両立問題が出てきて、社会における育児機能を求めている。

改革開放政策を実施してから、「一人っ子政策」の実施に伴い、これらの政策は中国社会に大きな影響をもたらした。性観念が解放され、各種の避妊方法も普及し、徐々に男女とも出世できるような社会になっている。家庭は依然として社会を安定させる最小単位であるため、少子高齢化の進展によって、人口政策が緩くなっている。しかし、HIVなどのSTIsにかかる者がまだ増えており、LGBTグループが徐々に権利を求める現状がある。将来の人間が豊かな人

生を過ごすために、学校教育で幼少期に性教育の実施を行いはじめ、子どもたちは人生を計画的に過ごすことが望まれる。また、LGBTをめぐるいじめといった解決すべき課題が青少年の間で出てきたため、中国特有の社会事情に関して研究が進むことが望まれる。

<参考文献>

- 1) WHO: 世界保健機関憲章前文 (日本 WHO 協会仮訳) <https://japan-who.or.jp/about/who-what/charter/> (2021年09月06日閲覧)
- 2) WHO: Global progress report on HIV, viral hepatitis and sexually transmitted infections, 2021. p4. <https://japan-who.or.jp/about/who-what/charter/> (2021年09月06日閲覧)
- 3) EVIDENCE TO ACTION : CHINA Key facts on HIV <https://www.aidsdatahub.org/country-profiles/china> (2021年09月06日閲覧)
- 4) UNFPA: 《国际性教育技术指导纲要》(修订版) 中文版 <https://china.unfpa.org/zh-Hans/publications/itgse2018> (2021年09月05日閲覧)
- 5) 小浜正子: 一人っ子政策と中国の社会, 64-65, 京都大学学術出版会, 京都, 2021
- 6) 中共中央規律検査委員会 中華人民共和国国家監察委員会: 深度关注 生育政策調整の关键一环: 人口と計画法完成修改 (訳: 生育政策調整の関心の一環 人口と計画法の修正の完成) https://www.ccdi.gov.cn/toutiao/202108/t20210822_248713.html (2021年9月20日)
- 7) 劉達臨、胡宏霞: 中国性文化史, 2-25, 東方出版中心, 上海, 2007
- 8) 王全意、索羅丹、黎新宇、張北川: 男男性行為の历史文化背景及现状. 公共衛生与預防医学 17(5): 44-45, 2006 (訳: 男性同性愛者の性行為の歴史文化背景及び現状)
- 9) 馮驥才主編、謝桂華編著: 民間年画: 寄托世代祈福夙愿 演绎千年民俗变迁, 2-18, 河北少年儿童出版社, 石家庄, 2004 (訳: 民間年画: 各世代の幸福を祝い、千年間の民俗変遷を表し)
- 10) 張士閔: 中国传统木版年画的民俗特性与人文精神. 山東社会科学 126 (2): 53-58, 2006 (訳: 中国伝統木版年画の民俗特性と人文精神)
- 11) “春从画里归” 深圳美术馆推出最具年味展览 (訳: 「春は画より来る」 深セン美術館の春節展覽) http://news.sznews.com/content/2019-01/21/content_21362318.htm (2021年9月13日閲覧)
- 12) 山東省濰坊楊家埠木板年畫 http://shop.11665.com/list0/23/50012880/50012883/n_20303584891.html (2021年9月13日閲覧)
- 13) Alfred C. Kinsey、潘綏銘(訳): 金賽性學報告, 156, 中国青年出版社, 北京, 2013 (キンゼイ性學報告)
- 14) 马克思恩格斯全集第21卷, 39-97, 人民出版社, 北京, 1965
- 15) 丁美美: 恩格斯一夫一妻制家庭理论及其现实启示—读恩格斯《家庭、私有制和国家的起源》有感. 現代交際 13: 228-229, 2020 (訳: エンゲルス一夫一妻制度家庭理論及びその現実の啓示—エンゲルス「家庭、私有制と国家起源」書評)
- 16) 劉達臨、胡宏霞: 中国性文化史, 74-77, 東方出版中心, 上海, 2007
- 17) 礼記(下)・昏義第四十四. 1182-1190, 中華書局, 2012
- 18) 李零: 中国方術考, 11-19, 東方出版社, 北京, 2001
- 19) 劉達臨: 中国古代性文化. 662-678, 寧夏人民出版社, 銀川, 2003
- 20) 高羅佩: 中国古代房內考. 170-251, 商務印書館, 北京, 2007
- 21) 劉達臨、胡宏霞: 中国性文化史, 86-88, 東方出版中心, 上海, 2007
- 22) 黄盈盈、潘綏銘: 中国的人性技巧之变—21世纪全国18-61岁总人口四次随机抽样调查的实证分析. 中国性科学 25 (11): 150-154, 2016 (訳: 中国人の性技法の変化—21世紀全国18-61歳総人口の四回ランダム調査の実証分析)
- 23) 劉達臨、胡宏霞: 中国性文化史, 251-257, 東方出版中心, 上海, 2007
- 24) 劉達臨、胡宏霞: 中国性文化史, 386-387, 東方出版中心, 上海, 2007
- 25) 葉師美芳: LGBTの子どもも過ごしやすい学校について考える, 早稲田教育ブックレット No.13 LGBT問題と教育現場—いま、わたしたちにできること—, 早稲田大学教育総合研究所 監修, 7, 学文社, 東京, 2015
- 26) 杉山文野: ダブルハッピーネス—辛さが二倍なら楽しさ二倍—, 早稲田教育ブックレット No.13 LGBT問題と教育現場—いま、わたしたちにできること—, 早稲田大学教育総合研究所 監修, 27-45, 学文社, 東京, 2015
- 27) 黄盈盈: 性/別、身体与故事社会学, 164, 社会科学文献出版社, 北京, 2018

- 28) 卫生部办公厅关于印发《变性手术技术规范（试行）》的通知
(訳: 衛生部辦公廳が「変性手術技術管理規範(試行)」を印刷して発行する通知)
<http://www.nhc.gov.cn/zyygj/s3585u/200911/85734440426e4031ba9daf5bbdf517ec.shtml> (2021年9月13日閲覧)
- 29) 田禾: 言葉からみる中国女性の地位, 学生と教職員のインターコミュニケーション誌, 42, 2011
- 30) 《中国性科学百科全書》編集委員会、中国大百科全書出版社社科技編集部: 中国性科学百科全書(珍藏版), 467, 中国大百科全書出版社, 北京, 2006
- 31) 曹育明: 研究要科学 宣传须谨慎-关于“少女性权利”及其他, 性学 7(4): 33-34, 1998.9
(訳: 科学的な研究 慎重的な宣伝 - 「少女性権利」及びその他)
- 32) 劉達臨、胡宏霞: 中国性文化史, 29, 東方出版中心, 上海, 2007
- 33) World Economic Forum. Global Gender Gap Report. 2020. http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2020.pdf (2020年09月28日閲覧)
- 34) 男女共同参画白書(概要版)平成30年版. 第5章 教育・研究における男女共同参画
http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h30/gaiyou/html/honpen/b1_s05.html (2020年09月28日閲覧)
- 35) 磯山友幸: 「女性の「就業率」が過去最高の69.9%に-次の焦点は「定年」を過ぎても働く女性」, 日経ビジネス, 2018. <https://business.nikkei.com/atcl/report/16/021900010/091300076/#:~:text=%E5%A5%B3%E6%80%A7%E3%81%AE%E5%B0%B1%E6%A5%AD%E8%80%85%E6%95%B0,%E5%A2%97%E3%81%88%E3%81%9F%E3%81%93%E3%81%A8%E3%81%8C%E5%A4%A7%E3%81%8D%E3%81%84%E3%80%82> (2020年9月28日閲覧)
- 36) 王青: 「中国の多くの職場で「3月8日」に女性が姿を消す理由」, DIAMOND online, 2019. <https://diamond.jp/articles/-/196265?page=4> (2020年9月28日閲覧)
- 37) 中華人民共和國民法通則 1986
- 38) 李愛芹 2006 中国丁克家庭の社会学透视 (訳: 社会学から中国のディンク家庭に関する分析). 西北人. No.6, 6-9.
- 39) 小島泰雄 2016 中国の一人っ子政策の転換. 地理・地図資料. 第1学期号, 8-10.
- 40) 黄盈盈, 潘綏銘: “单性别成长”的独生子女婚恋状况的对照研究-全国14-30岁总人口随机抽样调查分析, 51-56, 中国青年研究, 2014 (訳: 「単性別成長」をもとに成長した一人っ子の婚恋状況の对照研究-全国14-30歳の総人口ランダム調査分析)
- 41) 小浜正子: 一人っ子政策と中国社会, 345-346, 京都大学学術出版会, 京都, 2021
- 42) 国家統計局: 第七次全国人口普查広報(第四号)
http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/qgrkpcgb/202106/t20210628_1818823.html (2021年9月13日閲覧)
- 43) 小浜正子: 一人っ子政策と中国社会, 34, 京都大学学術出版会, 京都, 2021
- 44) 2019Family Planning Data Sheet. POPULATION REFERENCE BUREAU, 14
<https://www.prb.org/wp-content/uploads/2019/03/fp-data-sheet-2019.pdf> (2021年9月13日閲覧)

主指導教員（笠井直美教授）、副指導教員（大庭昌昭准教授・雲尾周准教授）